

## 寄ってみよう、行ってみよう

私が訪ねてみたいと思うまちは、山、川、海などの自然が豊かで、歴史の趣があり、しかも気軽に行くことの出来るまちです。私の住んでいるところの近くに三角町という豊かな自然に恵まれたのどかな町があります。熊本県の宇土半島の先端に位置するこの町は、明治三大築港の一つでもある三角西港や、海のピラミッド（熊本アートポリス）の建つ三角東港、洋ラン栽培で有名な戸馳島などがあり、みかんやイチジク、新鮮な魚介類などに恵まれています。

三角町は、明治20年の三角西港開港を皮切りに、戦前より、貿易など港を中心に栄えてきました。しかし、昭和41年の八代港開港に伴い、県下最大の貿易港の地位を奪われました。また、同年の天草五橋開通により、船や鉄道からマイカーへと交通手段が移行していききました。そのため、港や駅の利用も減少するなど、中心部が衰退するとともに、町全体の活気も失われていきました。

現況としては、海を隔てたところに位置する天草への通過点となっており、観光客も足を止めてくれません。また、今年8月には、昭和39年から運航してきた島原行きフェリーが廃止され、空洞となった東港は使用用途が決まらないままになっています。



三角町の位置



西港



西港と東港の位置

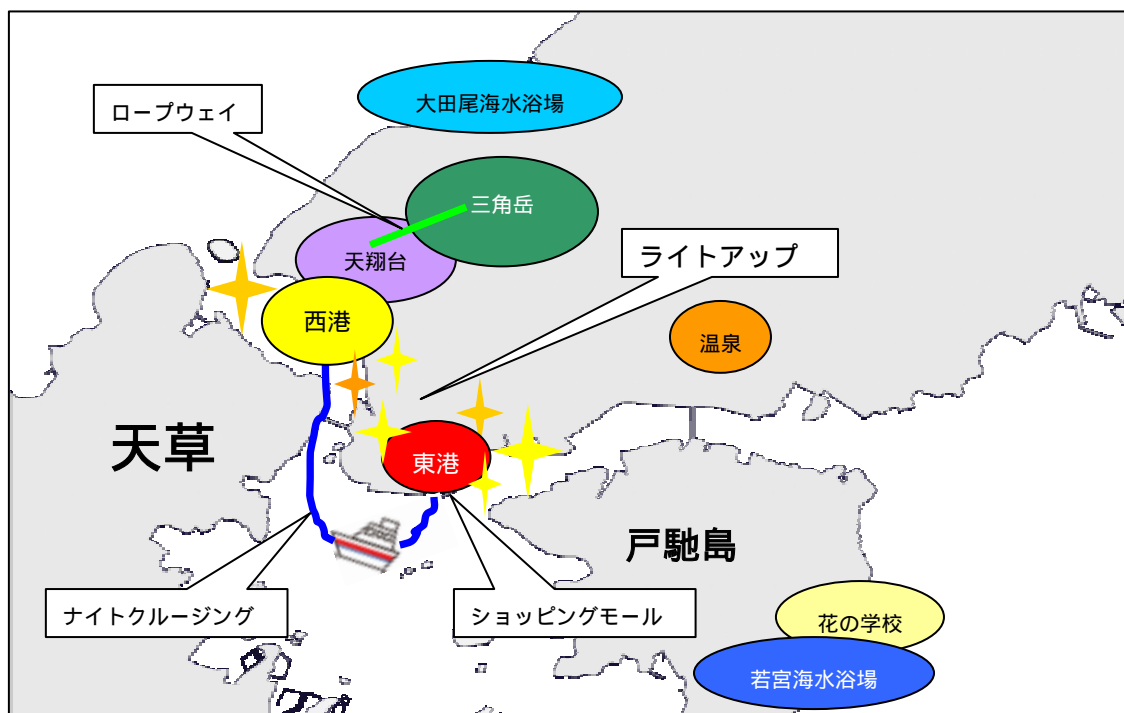


東港

現地調査の中で、フェリーに乗って海上より三角町を眺めてみると、地上からのときとは違う魅力を持った三角町の表情を見ることが出来、山上より三角町を眺めてみると、三角町を含め、海上の島々、海峡を挟んだ対岸まで広範囲にわたって見渡せることができることがわかりました。

○具体的な案として、次の4つの要素を中心にまちづくり案を検討してみようと思います。

- 第1要素 ... 港周辺をライトアップする。
- 第2要素 ... 三角岳と天翔台(展望所)をロープウェイで繋ぐ。
- 第3要素 ... 東港 西港間のナイトクルージング。
- 第4要素 ... 東港にショッピングモールをつくる。



まず、港周辺のライトアップには、意義として、「その場所を楽しむ」とことと「その場所を遠くから眺める」とことの二通りの楽しみ方があります。特に、後者は遠い場所を、第2、第3要素に関係する、山および海と置き換えることができます。この場合、西港・東港両港の夜景を一度に見渡せ、さらに、海の場合は水面に映る光も楽しむことができます。第2、第3要素は、第1要素との組み合わせだけでなく、個々でも楽しむことができ、第2要素に関しては、昼間の利用も期待できます。

第4の要素は、フェリー撤退により機能が空洞化した東港にショッピングモールをつくることを提案します。それを建設することによって新たに集客機能を持たせ観光客の方々の集まる空間が出来上がります。ここでは、海際でのショッピングが出来るのはもちろん、

食事、運転の休憩などとしても気軽に利用でき、一種の“道の駅”のような機能を観光客に対して果たすことが出来ます。また、現在、港と離れた場所にある地元のスーパーをショッピングモール内に移転することにより、地元の方の足が東港に及ぶことも期待できます。

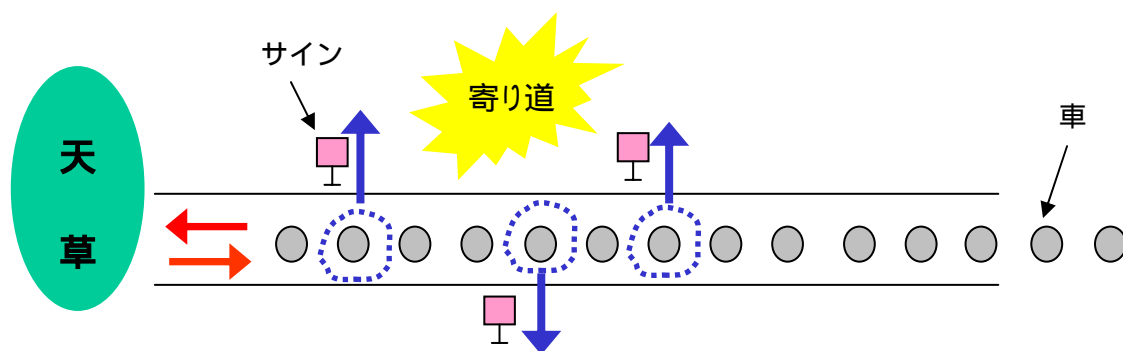
以上のまちづくり計画は、天草へ向かう、または熊本市内へ帰る車を止めるための直接的な手段となります。第1~3要素は、夜におけるアピール方法に重きを置いています。第2~4要素は昼間に各々、利用・運行することができるので、一日中、アピールすることができます。

次に、具体案として提案したスポットをどうやって、三角町を通過していく人にアピールするかを考えます。魅力あるスポットが存在しても、三角町を通過する人に気づかれないのでは意味がありません。よって、ここでは、車に乗って三角町の道路上にいる人に対する主張の仕方について提案します。

それは、道路上の車から見やすい位置に、スポットをアピールするための看板などのサインを設置し、スポットの存在を知らせます。また、各スポットには、他のスポットについての情報を提供することにより、スポット同士でアピールし合うこともできます。

これらにより、三角町を“今通り過ぎている人”に対して、サインを設置することによりアピールすることが出来、‘寄り道’として一時的に寄ってもらい、三角町の良さを知ってもらうことがねらいです。この‘寄り道’としての積み重ねによって、最終的には“三角町を目的地としてやってくる”人が増えてくるのではないかと期待します。

寄り道として利用してもらっただけでも、三角町の知名度は上がってくるのではないのでしょうか？これからは、天草の“通り道”だけではなく、“寄り道”として天草への観光客を取り込んでいくことが先決だと思います。



サインを用いた一時的アピール：「通り道から寄り道へ！！」